

2022 年度上智大学法科大学院入試 (C 日程)

一般論文試験 出題趣旨・採点基準

<出題趣旨>

通勤時の密を避けるため、JR が時間帯別運賃の導入を検討している。この新運賃体系案を素材に、多くの人に影響が及ぶ社会問題を複眼的に捉えることができるか (問 1)、問題文が提示する具体的な提案に対し、反論にも目配りをしつつ、自身の意見を展開できるか (問 2)、そして、問 1 の考察を論理的に問 2 の回答につなげられているか、を評価する。

<採点基準>

【問 1】(30 点)

→加点要素：鉄道をめぐるさまざまな立場を具体的に想定できていること。鉄道の定時利用者とそうでない者、業者、経済学者、環境活動家などの視点が想定できる。

(掲載文に挙げられたもの以外で) 考えられるメリットの例

- ・ フレックスタイム制の採用が増えて、通勤ラッシュが緩和される。
- ・ 通勤・通学という固定客からの運賃収入が増え、鉄道業者は安定した経営を見込める。
- ・ 通勤時間帯以外の運賃が安くなれば、年金生活者や学生は外出しやすくなる。
- ・ 運賃が安くなれば車を使わなくても済む人が増え、CO₂削減に寄与する。
- ・ 移動への不安がなくなれば地方への移住者も増え、過疎化が緩和される。

(掲載文に挙げられたもの以外で) 考えられるデメリットの例

- ・ ピーク時に通勤せざるを得ない事情がある人にとっては、変動運賃はただの値上げ。
- ・ 通勤手当を支給する企業にとって、変動運賃は支出純増以外の何ものでもない。
- ・ コロナに便乗した値上げと非難された鉄道会社が社会的な信用を失うかも。
- ・ 通勤・通学時間の「選択の自由」がある人・ない人で社会的分断が生まれるかも。
- ・ 同じ (距離を移動する) サービスで値段がちがうと、ネット上で「炎上」しかねない。

【問 2】(50 点)

→加点要素：問 1 の諸評価を効果的に使い、反論に対しても解決策を提示。

- ・ 時間帯別運賃への賛否を明記していない解答は 10 点減点 (「どちらでもない」は可)。
- ・ 自説に対する反論を挙げていない解答は 20 点減点。
- ・ 問 1 で挙げた点を一つも参照していない解答は 30 点減点。

【その他】

- ・ 字数が極端に少ない答案は大幅減点。誤字脱字は、著しい場合のみ最大マイナス 20 点。
- ・ 全体として論理的整合性を欠く場合は、一律 30 点。